

技術で豊かなまちづくり

平成17年1月1日

# 高知土木技士

No.36

(社)高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館5F TEL 825-1844]



平成16年度表彰 国土交通省 四国地方整備局 優良建設工事

施 工 関西土木 株式会社

工 事 名 平成14年度 野老山改良工事

場 所 高岡郡越知町野老山

現場代理人 弘 石 和 之

## 土木施工管理技士会倫理綱領

会員は、国家資格者として誇りと品格を持ち、  
常に自己の資質と技術の向上に努め、  
社会に貢献すること。

### (誇りを持つよう)

1. 土木技術の国家資格者として誇りを持って行動し、日頃から技術の研鑽けんさんに励むこと。

### (技術力を活かそう)

2. 技術者として自己の専門的知識及び経験をもって良質な物を作ること。

### (公正な行動をしよう)

3. 携わる事業の性質から、公正・清廉たつとを尚び、広く模範となる行動をすること。

### (ボランティアに参加する等、社会に貢献しよう)

4. 技術者として知識・経験を活かし、災害時等はもちろん、ふだんの生活においても、地域活動や社会奉仕に積極的に参加するよう努めること。

# 新年のご挨拶



(社) 高知県土木施工管理技士会  
会長 宮田益吉

明けましておめでとうございます。

新しい年が、皆様にとりまして、またご家族にとりましても希望に満ちた輝かしい年となりますよう心からご祈念申し上げます。

社会・経済情勢等をみますと、「長引く景気低迷から、ようやく抜け出せそうな兆しが見受けられる」という回復局面から、年末の動向指数には、景気の減速を印象付ける結果となっており、中小企業とりわけ高知県では、全国と比較しても回復のテンポは鈍く、加えて、財政危機宣言下の状況による、限られた建設投資のもと公共事業の落ち込みなど、私たち建設業界を取り巻く状況は一層厳しい経営環境におかれております。

一方、公共工事に従事する技術者の在り方として建設産業政策の基本方策は、全て技術力を基礎として提言されており、その中でも、技術と経営に優れた企業が伸びられる透明で競争性の高い市場環境の整備とされ、良い土木構造物を造り出すために、その構造物にふさわしい技術、工法を採用することのほかに、施工に当たる土木技術者が優秀であることが必要であり、技術者自身の現在の技術力が重視されるわけです。

ここに、全国土木施工管理技士会連合会が全国でいち早く、継続学習制度（CPDS）を平成12年から実施しており、当技士会も直ちに参加して、技士一人一人が技術力の向上へ研鑽を重ね、更に、良質な社会資本の整備を効率的に施工し、土木技士に課せられた役割・使命として努力しているところであります。

昨年、高知県では建設業者格付認定基準の見直しが実施され、県独自の「地域点数」の中に、技術力に重点を置いた、技術に優れた企業に対する評価として、「技術研修の実施（土木一式工事に適用）」が決定されました。

この地域点数は、当技士会で推進してきた「土木施工管理／CPDS」での登録学習単位数（UNIT）について評価する算定方法であり、個々の技術者が自己研鑽の結果を適正に第三者からも効果的に判断できるシステムであり、全国の自治体の中で、鳥取県・広島県に次いで、技術力重視の格付けとして評価されているものです。

このような観点から、技士会の役割は、これまで以上に大きくなるものと思います。

この時当技士会では、全国土木技士会連合会が監理技術者講習の登録機関に認定されたことから、土木技士会の監理技術者講習を開催することにしています。

まだまだ予断を許さぬ経営環境が続くと思われませんが、この状況を乗り切っていくため県内有資格者の全ての方々に会員への入会をお願いして、更に充実した組織を図りながら、会員技士の技術力向上と、それぞれの職場で地域でその能力を発揮し社会に貢献のため、全力をあげて諸事業の運営にあたる所存であります。

最後に、各関係団体の変わらぬご指導とご支援を賜りますことをお願い申し上げ、会員各位のご健勝を祈りまして年頭のご挨拶といたします。

## 新年のご挨拶

高知県土木部長 見波 潔

謹んで新年のお慶びを申し上げます。高知県土木施工管理技士会の皆様におかれましては、厳しいなかにも決意を新たにして、新しい年を迎えられたことと存じます。

平素から県行政、とりわけ土木行政の推進につきましては、格段のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。また、昨年は大川村の集中豪雨や多くの台風が来襲するなど被災時には、大変なご助力をいただきこの場をお借りしまして重ねてお礼申し上げます。

厳しさを増している財政問題につきましては、自主財源が乏しく、地方交付税への依頼度が高い我県は、三位一体改革に伴う交付税のさらなる見直しが行われるなか、あらゆる分野を聖域なく見直していかなくてはならず、厳しい財政運営が今後も続くものと考えています。

そのなかにあって、県民の暮らしと経済の発展を支え、南海地震の際の避難施設あるいは台風などの災害時の孤立解消のための高速道路や生活道路などの交通施設、河川・急傾斜地などの防災施設など、社会基盤の整備がまだまだ必要であると考えています。

そのため、土木部では昨年に引き続き地域を支援するため、①事業の優先順位を明確にし、効果的で透明性の高い事業を行う。②効果的な事業を実施するために、地域の実情に合った事業を進める。③既存施設の有効活用と延命化のための計画的な維持管理を行う。といった基本的な方針で県民とともに土木行政を推進してまいります。

契約・入札制度のあり方については、一昨年から企業の技術力の評価方法や低入札価格の制度をはじめ制度全般を、公開の場で検討していく委員会を業界の皆様や学識経験者の協力を得て進めています。

また新たな動きとしては、公共工事の品質確保の促進を図り、もって国民の福祉の向上及び国民経済の健全な発展を目的とする「公共工事の品質確保の促進に関する法律（案）」が国会へ提案されています。この中では、発注者側の体制の整備などや受注者の技術能力が適切に評価されることなどが求められており、常日頃から技術力アップに積極的、先導的に取り組んでおられる貴会の役割は、ますます重要になってくると考えます。

我々土木技術者は県民の負託に応じて、使い易く安価で、耐久性のある社会基盤の整備が求められており、より一層の技術力の向上と“良い物”を造るという使命感が重要であると考えます。明治時代に活躍した広井勇（高知県佐川町出身）が築造した小樽港北防波堤（日本初のコンクリート製長大防波堤）は、100年の荒波に耐え、今も当時のままに機能しているといわれています。このように、土木の構造物は良質の材料を適切に施工・管理すれば、半永久的に利用することができると考えます。

今後は、県の技術職員においても貴会のご協力を得て、県民の信頼を得る社会基盤の整備に努めてまいりたいと考えています。

住み良い県土づくりのため、高知県土木施工管理技士会のますますのご発展と、会員各位にとりまして実り多い年となることを祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

# 土木施工管理／CPDS

## Continuing Professional Development System

### 継続学習制度

最近の急激な科学技術の進展につれて、土木工事の施工法は進歩し、一方環境や健康に対する国民の価値観も変わり、施工上のルールも急速に変化しています。公共的な事業に携わる機会の多い土木施工管理技士の責任は重大であり、また、自己技術力の維持・向上のための研鑽は不可欠です。

#### ◆継続学習は世界的潮流

資格取得後における自己研鑽、いわゆる継続学習（継続教育、生涯教育とも言う）は、技術者資格の国際相互承認の動きの中で、世界標準の1つに資格取得後の継続学習が掲げられています。例えばAPECエンジニアになるための1つの条件として「継続的な専門能力開発」があり、継続学習は世界的潮流となっています。

#### ◆継続学習はプロとしての責務

技術者の技術力は、知識と経験によって支えられています。知識は、学校教育による学歴と各種資格の取得、さらに実社会に出てからの継続学習等によって得られ、経験は、実社会における工事従事の実務経験によって培われます。従って、技術者の技術力は、学歴・資格・継続学習、実務経験の3本柱で支えられており、継続学習はプロとして技術力の維持・向上を図る重要な柱です。

#### ◆学習活動の評価システム

学歴・資格は、卒業証明書及び各種合格証明書等によって、また、工事の実務経験は、JACICの管理するCORINSによって社会的に評価されていますが、継続学習はいずれの範疇にも入っていません。そこで継続学習制度・土木施工管理／CPDSによって評価し、常に自己技術力の維持・向上を目指す優秀な技術者の活用を社会にアピールすることとしています。

### 継続学習制度「土木施工管理／CPDS」

継続学習制度「土木施工管理／CPDS」（継続的専門能力啓発システム）とは、継続学習の実施と個人別学習履歴をデータベース化するシステムで、(社)全国土木施工管理技士会連合会が、資格取得後の土木施工管理技士に対して組織的、計画的な継続学習とその学習履歴を管理するものです。

#### ◆CPDSの目的

- ① 努力する技術者の評価（社会的地位の向上）
- ② 土木施工管理技士の技術レベルの維持向上（工事の品質の信頼）
- ③ 施工管理学習の体系化（総合的自己啓発の推進）

#### ◆CPDSの目標メリット

- ① 経営審査事項の技術力評価への加算
- ② 未経験規模の工事への工事経歴としての評価
- ③ 技術検定の受験資格要件である実務経験年数の短縮
- ④ 公募型、工事希望型等の事前審査の評価対象及び工事成績評定項目の設定
- ⑤ 工事現場におけるCPDS技術者証の活用  
上記メリットの付与を関係機関に働きかけています。

#### ◆学習形態と学習プログラム

CPDSの学習形態は、参加学習型、情報提供型、自己学習型の3種類とし、それぞれに対応した学習プログラムがあります。

次の表は学習形態別学習プログラムと提供（実施）機関です。学習プログラムのうち指定技術講習（標準プログラム・特定プログラム・Web-CPDS）は、連合会・各県等技士会が実施するものです。

学習形態	学習プログラムと提供（実施）機関	
	連合会・各県等技士会	その他の機関団体
参加学習型	指定技術講習（標準プログラム・特定プログラム）	
	研修会	研修会
	講習会	講習会
	見学会	見学会
	研究発表会	研究発表会
	講演会 シンポジウム	講演会 シンポジウム
情報提供型	技術論文発表 機関紙等投稿	技術論文発表 機関紙等投稿
	研修会講演会の講師	研修会講演会の講師
	研究発表	研究発表
	講演会・シンポジウムの講演者・パネラー	講演会・シンポジウムの講演者・パネラー
自己学習型	指定技術講習（Web-CPDS）	



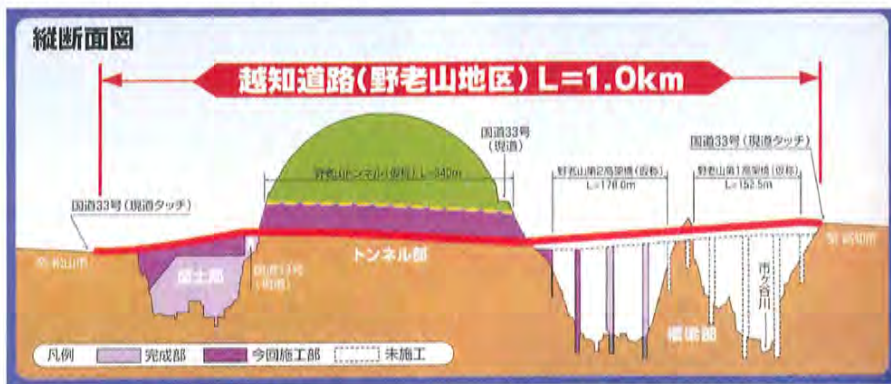
## 会員の広場コーナー

# 平成14年度 野老山改良工事

関西土木株式会社 土木部 弘石和之

本工事は、地域高規格道路として指定されている高知松山自動車道の一部として計画されている越知道路の一環として、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所発注により施工された野老山改良工事である。

越知道路（全長1.0km）の計画路線は、一般国道33号の中でも特に線形が悪く又、地すべり地帯であり大雨による事前規制区間であること等課題の多い路線であることから、早期解決を図るために計画された道路である。



本工事概要は、前年度工事続きの補強土擁壁（テールアルメ） $A=457\text{m}^2$ 及び、補強土壁盛土 $V=11,160\text{m}^3$ ・路体盛土 $V=14,100\text{m}^3$ ・路床盛土 $V=3,200\text{m}^3$ の施工及び場所打ち擁壁（重力式擁壁）雑構造物（ガードレール基礎・柵・水路）又、追加工事として前年度の残工事分の国道の切り替えを施工する工事であります。

工事着手にあたり、補強土壁の完成時の高さが20mを越す高さにおいて施工中の転落事故、作業員はもとより重機の近接による転落災害などについての安全対策を社内安全協議会を開き検討し、転用移動がし易く又、重機から良く目立つものなど創意工夫をしました。（写真①参照）又、重力式擁壁施工時において現道が地元の生活道になっていた為、迂回路の設置を検討しました。迂回路の設置は、国道33号線に接して高さが最大4m下へ掘削することと、大型重機のヤードが無い為モルタル吹付・ロックボルトにて補強する工法を検討し、国道の崩壊を防ぐように考えました。

迂回路施工に際し、地下埋設物（光ケーブル）が確認され現地立会い確認後、ロックボルトの配置を再検討し又、生活道路を極力止めないようにロックボルトの施工はスカイドリル方式（写真②参照）にて実施することにより地元の方々への規制の緩和が出来ました。

写真①



写真②



補強土擁壁工の施工は、施工場所が、隣接の別件トンネル工事（写真③参照）との調整にて非常に狭いヤードの中の施工となり、補強土擁壁材の仮置きスペースもなく据付前の搬入等の調整を計り又、補強土壁盛土工はストリップ材の敷設後のストリップ材に対し直角方向での巻き出しで、全体ではなく左右交互の施工になり、非常に苦勞を致しました。（写真④参照）

路体盛土はトンネルからのズリ及び、周辺の関連工事の発生土を流用にて施工予定でしたが、トンネルの地質が悪くAGF工法等にて掘削のため、ズリの発生量が不規則な状態であり、連絡協議会の中で工程調整を行って盛土工等の施工を実施し安全に施工が出来ました。

（写真③） 着手前

施工中



(写真④)



(写真⑤)



国道の切り替え工事は、24時間にて国道を切り替えるように検討し、事前に告示看板の設置及び、地元の方々に『工事に関するお知らせ』を配布し、周知徹底と御協力を依頼し工事に着手しました。

施工は下請業者と事前打合せを密に行い、片側通行規制にて実施しました。下請業者間がお互いに協力し合って事故も無く24時間で国道の切り替えが完了できました。（写真⑤参照）

狭いヤードでの施工又、高さ20mを越す高所での重機作業・型枠作業における、安全施工等が今回の受賞につながったと思われ、社内・社外は本より発注当局のご指導、関連業者さんの御協力により無事故・無災害にて工事を完成できたと思います。この場をおかりして御礼申し上げます。

最後になりますが、今後も色々な現場に従事するようになりますが、今回及び、今までの経験を今後の現場施工に十分に生かし、地元関係者・発注者当局とコミュニケーションを図り、創意工夫して現地にマッチした品質の良い構造物を、無事故・無災害にて完成できるように尽力致したいと考えています。



## 委員会コーナー

雑

感

研修委員 森本修功 (株式会社森本興業社長)

突然、会誌に投稿をと云われ、10年前、委員に委属された時の投稿を思い出した。それから早くも10年の歳月が過ぎている。当時異常渇水に悩んでいた時(平成6年7月頃)台風7号が県西部に上陸し、四国西岸沿いに北上し、早明浦ダム周辺に慈雨をもたらし、当時の新聞に“空飛ぶ給水車”と表現されていた。

今年台風の当り年? それとも自然災害の当り年かもしれない。最近はじめたインターネットで色々調べていると目にとまった一つのページがあった。

農業情報研究所主宰 北林寿信氏の

“続発する異常気象は自然の人類への警鐘だ、台風被害に傷ついた列島を地震が襲う”  
という文章であった。

相次ぐ台風、直下型地震、乱開発による自然破壊、荒れにまかされた山林。日本列島の自然生態系は、ちょっとした自然災害にも耐えられないほど脆弱になっている。

これも石油依存の大量生産、大量消費システムの為、温暖化による地球破滅の危機が来る可能性も高い。20世紀に地球の平均気温は0.7℃上昇したとのこと、世界で氷河が後退し、北極の氷は40%も減少したと云われている。同時に各国で洪水や、早ばつ、エルニーニョに関連した異常気象が観測されている。

今年の日本の猛暑や、大型台風の観測史上最多の襲来も温暖化のためだろうか、温暖化の影響は、水の不足、穀物生産の減少、伝染病の蔓延、海面の上昇による人間居住地域の減少につながっている。と述べられていた。

これは人類破滅、地球破滅に向かいつつあるのではないか。考えると恐ろしい。

人それぞれが、利便性ばかりを追求するでなく過去を振り返り反省をし共に進みたいと思う。

人は、一人で生きていくことは出来ないから。

# ● 実行事報告 ●

(抜粋)

## 1 1級土木技術検定「実地」試験 受験準備講習会開催

16年10月3日(日)に実施される平成16年度1級土木施工管理技術検定(実地)試験の受験予定者のため、試験直前の短期集中型講習を16年8月31日～9月1日の2日間コースで会場を高知県教育会館「高知城ホール」で行われ、受講者44名は、実地試験の記述式問題に対する力をつけるため、設問に対して習得したことを実際に要領よく記述できるかどうか「解答演習」を交えた講義に真剣に取り組んでいました。



1級土木(実地)受験準備講習会

(1級土木実地試験の合格発表は平成17年1月21日(金)です。)

## 2 土木施工管理/CPDS指定技術講習会を開く

本格的な「技術力の評価と活用」の時期を迎え、土木施工管理技士には常に技術力の向上を図り、新技術等の知識を習得する必要があります。

平成16年10月28日に、例年実施しています四国4県統一テーマによる講習会が、国土交通省四国地方整備局並びに高知県等のご支援を得て、会場「高知城ホール」で参加者223名で開催されました。

なお、この講習会は平成17年度高知県が「建設工事入札参加資格審査」での「地域点数」の審査項目～技術に優れた企業に対する評価として、「技術研修の実施」(土木一式工事)を新格付け基準に追加した。全国土木施工管理技士会連合会の「継続学習制度(土木施工管理/CPDS)」における登録学習履歴(UNIT数)の適用講習会です。



CPDS指定技術講習会

以下、学習テーマと講師を紹介します。

テーマ	講師
建設リサイクル法と建設副産物について	高知県土木部建設管理課 設計基準班 主幹 弘田豊之氏
労働災害の現状と防止対策について	高知労働局労働基準部 安全専門官 佐井可典氏
資材単価、市場価格、公共工事設計 労務単価の動向について	(財)経済調査会 四国支部 副参事 益田稔氏
四国地方の砂防の現状と課題 (土砂災害に備えて)	国土交通省四国山地砂防事務所 副所長 近藤秀樹氏
建設業法改正のポイント 現場に役立つ新技術	(社)全国土木施工管理技士会連合会 専務理事 猪熊明氏

### 3 中国・四国土木施工管理技士会連合会「ブロック協議会」「技術交流会」開催される

平成16年11月9日、中国地区技士会の開催担当として山口県に於いて、中国5県四国4県の技士会が集まり、平成16年度技術交流会を開いた。当日は、国土交通省大臣官房技術調査課 田中基裕課長補佐、中国地方整備局 望月常好局長、四国地方整備局 木下賢司企画部長ほか中国5県、各土木部幹部を交え、技術交流意見交換会を行い、行政庁に対し、土木施工管理技士の重視・活用、社会的地位の向上のため、その実現に向けて5項目の要望を行った。



中国・四国ブロック協議会・技術交流会

※ 要望事項は次の通り

- ① 施工計画書について……発注時、概数設計の取扱いで施工計画書提出方法を要望。
- ② 監督補助員の資格条件について……国土交通省における監督補助員の資格条件は如何。
- ③ C A L S / E Cにおける情報の共有化について……情報のインターネット取扱いを要望。
- ④ 発注者・設計者・施工者（主任及び監理技術者）の三者協議の義務付けについて……効率的施工実施への設計者参加の要望。
- ⑤ 土木施工管理技士会所属技士の評価・活用について……資格取得後の自己研鑽実績者の評価を要望。

### 4 県内技術研修会実施（CPDS対象研修会）

平成16年11月12日（金）に、新技術・新工法等の習得を目的とした技術研修を県内の工事現場2カ所で行い、各々の建設監督官から熱心にご指導を受け、質問も活発で参加の会員技士に有意義な一日でした。

※ 研修対象会員：県中央地区会員（高知・南国・いの・嶺北）40名

工 事 現 場：①中村市不破～中村宿毛道路「新四万十川橋下部工事」

国土交通省中村河川国道事務所

特色1. 日本屈指の大深度ニューマチックケーソン工法

2. 二つの基礎工法の合わせ技～最初にオールケーシング工法で場所打ち杭を施工し、その後ニューマチックケーソン基礎を施工し、合体させる構造。

3. 四万十川の自然風景を生かすシンプルな橋。

工 事 現 場：②土佐清水市下川口～「宗呂川河川改修工事」

高知県土佐清水市土木事務所

特色1. 平成13年高知県西南部豪雨災害の復旧工事で、環境対応工法の現状。



新四万十川橋工事



宗呂川河川復旧工事

## 事務局だより

### 1. 当技士会会員の慶事報告



旭日双光章

宮田 静喜氏

(株)春野工業 代表取締役

昭和9年10月20日生

高知県吾川郡春野町森山155番地

#### ご経歴

#### 前職

##### ●団体歴

- (株)高知県建設業協会常任理事
- 伊野管内建設業協会会長
- 建設業労働災害防止協会高知県支部理事
- 高知県建設業団体連合会理事
- 高知県建設業厚生年金基金代議員
- (株)高知県火災類保安協合理事
- 高知県建設業協同組合理事
- (職訓)高知県建設業訓練協合理事
- (株)高知県土木施工管理技士会理事

##### ●公職歴

- 春野町議会議員

#### 受賞歴

- 昭和58年7月 優良施工業者として高知県知事表彰
- 平成元年5月 多年にわたる役員功勞に対し(株)高知県建設業協会長感謝状
- 平成4年5月 業界発展への功勞により(株)全国建設業協会会長感謝状
- 平成6年7月 優良施工業者として高知県知事表彰
- 平成7年7月 優良施工業者として高知県知事表彰
- 平成8年7月 優良施工業者として建設省四国地方建設局長表彰
- 平成8年7月 建設功勞者として建設大臣表彰
- 平成9年7月 優良施工業者として高知県知事表彰
- 平成10年7月 優良施工業者として建設省四国地方建設局長知事事務所長表彰
- 平成11年7月 優良施工業者として建設省四国地方建設局長表彰
- 平成11年11月 地方自治功勞者として高知県知事表彰
- 平成16年11月 建設功勞者として旭日双光章

#### ご功績

氏は昭和25年4月以来家業の農業に従事していたが、建設業を通じて、戦後の傷痕が残る郷土の復興にその身を捧げることを決意し、昭和30年2月に神田建設に入職した。その後施工技術と専門知識の習得に努め、昭和35年からは春野建設に移り、日々研鑽を重ねた。昭和45年7月には先代の後を受け代表者となり、商号も春野工業と改め、持ち前の行動力・指導力によって業績は進展し、昭和46年2月には有限会社春野工業として法人化、更に平成6年6月には株式会社への組織がえを果たすなど着実に県中央部における有力建設業者としての礎を築いてきた。

この間、国をはじめ、県・市町村等が発注する公共土木工事を中心に、豊富な経験と優秀な技術力を駆使して数多くの優良工事を完成しており、これら公共工事を通じて産業基盤の整備促進、地域社会の生活基盤の充実にも多大な貢献をしている。これらの功績に対し国、県等より数多くの表彰を受けるなど、関係機関等の評価も高いものがある。

また、業界団体にあつては昭和58年5月から平成16年5月までの21年間、(株)高知県建設業協会の理事として協会運営にたずさわり、とりわけ、平成8年5月から平成14年5月までの6年間は常任理事の重責を担い、県下約500余社の経営能力、技術力向上に努め、かつ関係団体との協調融和に尽くす等、建設業界の健全な発展に大きな貢献をしている。そして、地元伊野管内建設業協会においても昭和52年からの20年間は理事として、とりわけ昭和59年からの12年間は副会長、そして平成8年5月からの5年間は会長として団体運営の中核にあつて、常に率先して事業の遂行に努め、かつ本部と支部との重要な調整役として会員相互の融和親睦はもとより各種情報の普及、啓蒙にも心を砕くなどあらゆる方面において活躍しており、会員はもとより関係者の信望も極めて厚く、その功績は誠に顕著なものがある。

これらの功績が顕彰せられ、平成8年には建設大臣表彰を、さらに平成11年には高知県知事表彰を、そして今回栄えある旭日双光章を受章されたものである。

### 2. 平成16年度1級土木施工管理技術検定「学科試験」実施結果

平成16年7月4日、「平成16年度1級土木施工管理技術検定・学科試験」が全国13地区39会場で行われ、8月20日実施結果が発表されましたので、ご紹介いたします。

試験結果の全国合計を見ると、当日の出席者59,881人に対して合格者22,636人、合格率37.8%と、前年度の合格率49.9%に比べて12.1ポイントと大きく減少しました。

高松会場においても、出席者2,679人に対して合格者1,045人、合格率39.0%と、前年度の51.1%に比べ12.1ポイントと同じく減少しました。

●合格基準 解答する65問の内39問以上正解を合格基準とする。なお、出題形式は、全96問の内必須及び選択問題を合わせ65問解答するものである。

#### 平成16年度2級土木施工管理技術検定試験実施結果

平成16年7月18日、「平成16年度2級土木施工管理技術検定(学科・実地)試験」が全国12地区34会場で行われました。10月18日、その実施結果が発表されましたのでご紹介いたします。

#### ●実施状況

〈平成16年度〉

#### 1級土木施工管理技術検定・学科試験結果表

平成16年7月4日実施・平成16年8月20日発表

試験地	受験予定者数(人)	出席者数(人)	出席率(%)	合格者数(人)	合格率(%)
札幌	3,509	2,932	83.6	1,027	35.0
釧路	766	656	85.6	207	31.6
青森	1,649	1,425	86.4	490	34.4
仙台	5,468	4,592	84.0	1,782	38.8
東京	15,971	13,132	82.2	5,214	39.7
新潟	2,571	2,209	85.9	924	41.8
名古屋	8,178	6,924	84.7	2,691	38.9
大阪	12,100	10,193	84.2	3,786	37.1
広島	3,300	2,778	84.2	1,100	39.6
岡山	2,143	1,790	83.5	655	36.6
高松	3,182	2,679	84.2	1,045	39.0
福岡	10,239	8,485	82.9	3,135	36.9
沖縄	2,676	2,086	78.0	580	27.8
全国計	71,752	59,881	83.5	22,636	37.8

●実施状況 (平成16年度) 2級土木施工管理技術検定「学科・実地試験」結果表

平成16年7月18日実施・平成16年10月18日発表

試験地	学 科 試 験			実 地 試 験			学科のみ 合格者数
	出席者数	合格者数	合格率(%)	出席者数	合格者数	合格率(%)	
高 松	2,328	973	41.8	2,590	658	25.4	460
全 国 計	46,456	19,208	41.3	51,157	12,796	25.0	8,873

●学科合格基準 学科・実地受験者は、選択問題、必須問題を合わせて解答する45問の内、27問以上正解を合格基準とする。学科試験一部免除者は、必須問題20問の内、12問以上正解を合格基準とする。

●配 点 選択問題、必須問題の正答数の合計を得点とする。(1問1点)

※ 合格基準、配点及び正答肢は、学科試験のみの発表となります。

始めます!  
土木技士会の監理技術者講習

☆☆技士会会員は、技士会連合会の監理技術者講習を受けましょう☆☆

◆ 建設業法の改正に伴う監理技術者の取扱が変わる ◆

◎ 主任技術者及び監理技術者の設置

国、地方公共団体その他政令で定める法人が発注者である建設工事についての専任の監理技術者は、監理技術者資格証の交付を受けている者で、国土交通大臣の登録を受けた講習を受講した者のうちから、選任しなければならない。

一般競争入札、公募型競争入札等については、有効な監理技術者資格証と監理技術者講習修了証を提出しなければなりません。

ただし、平成16年2月29日以前に交付された監理技術者資格証を所持している者については、監理技術者講習修了証の提出の要はない。

また、発注者等から監理技術者資格証及び監理技術者講習修了証の提示を求められることがあるので携帯しておくことが望ましい。

監理技術者講習 実施予定表

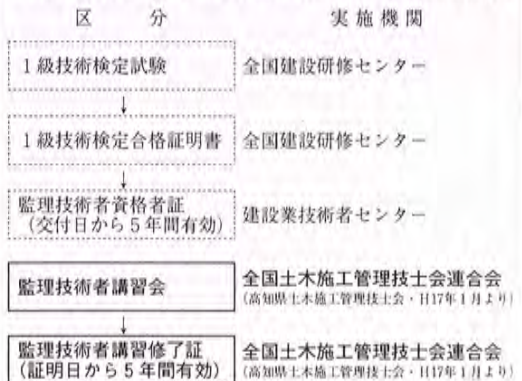
連合会 (当技士会) 主催

連合会 (当技士会) 主催の監理技術者講習を次の日程で開催致しますので、是非、受講をお願いします。

- 開催場所 高知県建設会館  
(高知市本町4丁目2-15  
4階ホール)
- 開催月日
  - ・平成17年1月22日(土)
  - ・平成17年1月29日(土)
  - ・平成17年4月23日(土)
  - ・平成17年8月19日(金)
  - ・平成18年1月14日(土)
- 受講料 11,500円  
(テキスト代・講習修了証  
交付手数料・消費税含む)

※ 参考

◇監理技術者等の資格の区分及び実施機関



# 平成17年度 1、2級土木施工管理技士試験と講習会のご案内

## ～ 土木施工管理技士をめざして～

(財)全国建設研修センターが建設業法に基づいて実施します「検定試験」、また、(社)高知県土木施工管理技士会が行います「受験準備講習会」を次のとおり予定しています。

なお、申込み用紙(願書)の販売方法、講習会への受講申し込み方法については、決定次第会員各位の所属会社あてにご案内文書を発送いたします。

### － 実 施 予 定 －

#### ◎ 検定試験

1級(学科)	申込受付 試験日	平成17年3月1日～3月15日(予定) 7月3日(日)(予定)
1級(実地)	申込受付	平成16年度学科試験合格者・学科試験免除者 平成17年3月1日(火)～3月15日(火) (予定) 平成17年度学科試験合格者 平成17年8月19日(金)～9月2日(金) (予定)
	試験日	10月2日(日)(予定)
2級	申込受付 (学科・実地同一日)試験日	平成17年3月1日～3月15日(予定) 7月17日(日)(予定)



#### ◎ 受験準備講習会(「検定試験」受験に備える講習会)

1級(学科)	日程	平成17年5月17日～19日 } (6日間) 5月24日～26日 }
	会場	高知市
	受講料	会員：45,000円・一般：48,000円
	再受講者割引	(H15～16年度当講習会参加者) 会員：35,000円・一般：38,000円
「実力テスト」	日程	平成17年6月17日(1日間)
	会場	高知市
	受験料	受験講習会参加者：6,000円 テストのみ参加者：8,000円
1級(実地)	日程	平成17年9月1日～9月2日(2日間)
	会場	高知市
	受講料	会員：20,000円・一般：23,000円
	再受講者割引	(H16年度当講習会参加者) 会員：18,000円・一般：21,000円
2級	日程	平成17年6月7日～9日(3日間)
	会場	高知市
	受講料	会員：30,000円・一般：33,000円
	再受講者割引	(H15～16年度当講習会参加者) 会員：25,000円・一般：28,000円

